

2020年の抱負

1. 1000号へ向けて

この号は677号です。2007年3月1日に第1号を発信してから12年8ヵ月経過しました。「止める時は倒産の時」の覚悟で、ほぼ、毎週土曜日に発信して来ました。途中からリンクを貼ってA4で2頁の記事を付けるようにして、さらに、ブログも2通リンクするようになりました。リンク記事は、お客様で勉強会の資料にも使われるので、少し内容のある物にしています。友人やお客様から「毎週、よく書けるね」と言われますが、寸暇を使って書いていますので負担感は余りありません。

しかしながら、677号にも重ねると、さすがに添付資料にするネタに困る事が多くなって来ました。タナベ経営からのメルマガで話題を仕入れて、それを自分なりに咀嚼して書く事でピンチを切り抜ける事もあります。1000号まで、あと323本、週1回のペースだから6年と3ヵ月なので2026年3月頃に到達する勘定です。私は、その時、77才なので喜寿の祝い年です。甘い推測ですが元気におれると思います。元気のおれる可能性があるので、チャレンジして前人未踏の1000号という大きな喜びで喜寿を祝いたいと思っています。

このように、記事を書く気持ちはあっても現実には厳しいものです。読んで下さる方もマンネリ化がひどくなると抵抗感が大きくなるので、脱マンネリを心がける必要があります。重要なのは記事の質を維持することです。いくら無料と言っても雑な記事では読んでもらえないと思います。この「質」という点が最大課題なのです。タナベさんのメルマガなどでネタを仕入れる努力が大切と思って、最近は大層に読もうと意識するようになりましたが、タナベさんは大勢の人が記事を書いておられますが、そのタナベさんすら同じようなネタが続くようになっていきます。本当に、この業界の悩みですね。この業界は、言葉をカタカナに変えるという事が多いですが、カタカナに変えただけでは新鮮味が薄くなります。本当の意味で新しい視点に立ったネタが欲しいと思います。

2. 「縁・運・つき」

前述のように、記事を書く気持ちとネタ切れの二律相反する状態ですが、一つのチャンスはお付き合いする世界が少しずつ変わっていく事です。新しい人との出会いから「縁・運・つき」が始まるのです。よい方と出会う「縁」を大切に、その方から学ぶことで「運」が拓かれて、その「運」をヒタスラ努力する事で「つき」に変えることが大事です。大阪商工会議所や大阪府中小企業家同友会などに所属していますので、積極的に会合に参加することで新しい人との出会いが誕生する可能性があるのです。他にもいろんな会合があるので積極的に参加したいと思っています。

また、SNSの時代ですから、フェイスブックだけでなく、ツイッターやインスタグラムなどにもチャレンジして情報発信の仕方を変えて行くことも大切です。「炎上」という言葉がありますが、若い方と育った背景が違うので意見の食い違いが出るのは当然と思うので、「炎上」を恐れずに自分らしさを発信したいと思います。また、SNSでは、発信ばかりでなく受け身になってフォローするという事も大きな視点になります。若い人の発信を受容できる柔軟な思考とキャパを持ちたいと思います。

647号でサラリーマン時代にお世話になった元IBMの灰本さんから「一隅を照らす」という自著本を贈って頂きましたが、この時、右掲のように天台宗の教える実践の3本柱から自分が日常実践する3本柱を考えました。素晴らしい方から大きなプレゼントを頂いたと感謝しています。これからは、地域との交流機会が多くなりますが、例えば、事務所のあるマンションで老人会に参加して世話役をさせて頂いています。メンバーの中では若い方なので、会の運営企画から会計なども担当させて頂いています。去年は近所の喫茶店にお願いして「麻雀」を楽しめる場を提供して頂きました。簡易な台を預けておいて、気軽に麻雀を楽しめるようになりました。私は、麻雀をしないので見ているだけです。皆さまが楽しそうにしておられるので遣り甲斐があります。

「一隅を照らす」の実践3本柱

「生命」: あらゆる生命を大切にする

「奉仕」: みんなの為に行動する

「共生」: 自然の恵みに感謝する

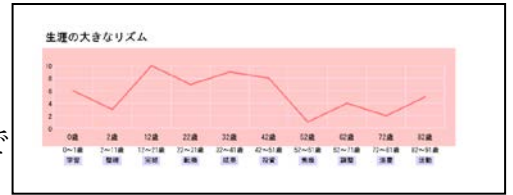


私の実践3本柱

「感謝」と「奉仕」と「お互い様」

3. 70代は実りの10年

右掲はパソコン診断による私の運勢グラフです。マクロに見ると幼少期は親が大阪に出て来たのでどん底状態であり、小2の時に母がお好み焼き屋を始めて家庭的に余裕が出て私の運勢も中1をピークに上り、その後、高校・大学時代は病気との闘いであり、就職をしてコンピュータの道を突き進み、42才の時に関連



会社へ行き3年後に独立して今の会社を立ち上げ、52才どん底で、その後反転して、62才の時にピークを迎え、その後、停滞気味で今日に至っています。意外に当たっています。そして、何と言っても心強いのは2年後に反転上昇する事です。四柱推命という占いがベースになったソフトですが、「当たるも八卦、当たらぬも八卦」と割り切って前向きになって頑張る気持ちになれます。

このように書けば、「他力本願」と思われがちですが、本来の「他力本願」は文字通りの他人頼みというのではないのです。「他力本願」の真の意味は、浄土真宗の親鸞聖人が、「他力と言うは如来の本願力なり」（教行信証行巻）と明示しているように、「他力」と「本願」は同じ意味で、「本願」は「本当の願い」（これ一つ叶えばよい、一番大事な願い）という事であり、仏様（阿弥陀如来）の広い心という事になります。つまり、「これ一つ叶えばよい」をヒタスラ実践することが大切です。

私の「これ一つ叶えばよい」は、3人の息子、長男は京都で上場企業の研究職をしており、次男は東京で弊社のお客様の東京営業所で営業職をしており、2人とも結婚して子供2人を授かり、マイホームを建てて頑張っています。そうなんです。私の「これ一つ叶えばよい」＝「身近な夢」は、この2人の息子たちの「幸せ」と身近にいる三男が一人前になってくれる事なのです。お陰様で前述のように、去年、2025年に事業承継すると宣言して三男が自覚したような動きになって来た事が嬉しい兆候です。この3人の息子たちの「幸せ」が私の「本願」なのですが、如来の本願力を頂けるように私自身が70代を元気に過ごすことが大切です。

4. 「而今」

つまり、「而今」（じこん：今から）という禅語がありますが、未来に向かって今をコツコツと歩む事が大切なのです。そのベースは、何と言っても「健康」です。私は、「運動」⇒「食事」⇒「健康」と考えています。まずは、健康寿命の基礎である自分で何もかも出来る状況づくりの為に毎日の行動中で運動を取り入れています。有難いことに事務所と自宅は近い距離にあるので通勤は徒歩です。毎回、少し遠回りして1.5kmを信号の状況にもよりますが18分弱で歩くようにして、昼も自宅で自炊して1日計6kmをベースとして実践しています。「運動」を適度にすると「食事」が進むようになりますが、その「食事」は家電調理器を駆使して自炊して塩分の取り過ぎや栄養バランス維持を心がけています。お陰様でいろんな数値が良くなって来ました。

このベースを実践しながら、人との交流という「社交」面も喫茶店仲間や地域活動で知り合う方々増えており幅広くなっています。勿論、大阪商工会議所や中小企業家同友会などの活動を通して交流する方が増えています。また、趣味の範疇ですが「カラオケ」を習慣化しています。昼に自宅で食事した後「一人カラオケ」を30分楽しんでます。100円程度で6曲楽しめてコーヒーもいただけます。6年程前に79点台だった三波春夫さんの「俵星玄蕃」は89点台になり、全国ランキングでも上位に入るようになりました。三波さんには新曲がないので、最近では、福田こうへいさんや三山ひろしさん、成瀬昇平さん、和田青児さんなどと幅を広げています。また、村田英雄さんの「無法松の一生」を歌うと若い人に大いに受けました。「人脈」というのは大袈裟ですが、人との交流で「晴」の気分が頂けるようになってます。身近な交流ですが、いずれも「習慣化」が出来ているので今後も持続したいと思っています。

単純に「生きてこそ人生」と願い、現実には、体力的は下り坂になっており、アンチ・エイジングの努力がキーポイントになります。「今の努力は10年先に花が咲く」と信じて前向きに努力します。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> にあります！】